

中村元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新報

中村元 慈しみの心

No.395

王の車であつても、ついには壊れる。この身も老いと死に移りゆく。ただ正道だけは老いることがない。これは善人が善人に語り伝えたことである。

(釈迦)

△解説▽豪華で堅牢な王の車であつても、造られたものは壊れるのが道理。生まれたこの身も同じ。ただし善人が伝えた正しい人の道は決して老いることはない。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.12.10 中村元記念館協力

2016年(平成28年)12月10日(土曜日)

中村元 慈しみの心

No.394

むさぼりと怒りとおごりの悪心が己を害する。たとえば竹が実を結ぶと枯れるように。

(釈迦)

△解説▽衣食・名誉・地位などをむさぼる。恨み、憎み、妬んで、憤り、怒り、そして争う。傲慢な心を起こし、人を差別し、蔑視する。こんな人は己を傷つけ、苦しみ、いづれ身を滅ぼす。竹が花を咲かせ、実を結ぶと枯れてしまうように。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.12.9 中村元記念館協力

2016年(平成28年)12月9日(金曜日)

中村元 慈しみの心

No.397

人は己より愛しい者を探すことはない。同じように他の人々にも、己はこの上もなく愛しい。したがって己が愛しいことを知る人は、他の者を害してはならない。

(釈迦)

△解説▽世に最愛の人はだれかと聞かれたら、人は己であると答えるだろう。自己中心的考えと思われるが、真の自己愛は他人も己を最も愛しいと思つていることに気付くこと。真の自己愛は他者愛である。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.12.13 中村元記念館協力

2016年(平成28年)12月13日(火曜日)

中村元 慈しみの心

No.396

善業と悪業は人が現世で作つたもの。彼が作つたものゆえに、来世にそれを持って往かねばならない。影が形に従うように。

(釈迦)

△解説▽業はくせ・性癖・身心の習慣力などをいい、善くも悪くもみな己が作り、身に付けたもの。死後、来世に随行するのは善業と悪業で、その軽重によって生まれ変わる世界が決まるといふ。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.12.11 中村元記念館協力

2016年(平成28年)12月11日(日曜日)

中村 元 慈しみの心

1 総合

山陰中央新

中村 元 慈しみの心 No.399

勝利は恨みを生み、敗れると悔しくて眠れない。ただ勝敗を捨て去ってこそ快く眠れる。
(釈迦)

〈解説〉競争は勝敗を決するが、勝者は喜び、敗者は悲しむ。競争に負けると、敗者の悲しみは悔しさに変わる。悔しさで眠れない夜は長い。そこで釈迦は競争であっても、勝敗を超えて競えと教える。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.12.15 中村元記念館協力

2016年(平成28年)12月15日(木曜日)

中村 元 慈しみの心 No.398

食をとるのがよい。そうすれば苦しみが少なく、老いることが遅く、寿命を保つだろう。
(釈迦)

〈解説〉近年、どこに行っても食べ物安くてうまいものばかり。つい食べ過ぎ、飲み過ぎてしまう。菓を服して飲食する人が多いと聞くが、哀れに思われる。節量と節食は若さを保ち、長生きの秘訣のようである。

田上太秀・駒澤大名誉教授

2016.12.14 中村元記念館協力

2016年(平成28年)12月14日(水)

中村 元 慈しみの心 No.401

悪業の報いで地獄に往く。功德の報いで天に生まれる。功德の報いは人とって来世に至る渡し場である。
(釈迦)

〈解説〉三途の川を渡った先は地獄なのか浄土なのか。霧に覆われて外から見えないらしい。しかし善を積むとその功德で浄土に生まれると言われる。善行の報いは、浄土への船がある港に導いてくれるという

田上太秀・駒澤大名誉教授

中村 元 慈しみの心 No.400

他に勝つと、己に勝つ者ができる。己を誇れば、己を誇る者ができる。他を悩ますと、己を悩ます者ができる。
(釈迦)

〈解説〉殺すと殺される。殺す、恨まれ、敵を取られる。勝つと相は悔しく、さらに力を付けて仕返す。他を誇ると根に持たれ、他を苦しめると、それ以上に苦しめられる。これが世態・人情である。

田上太秀・駒澤大名誉教授